







新春剪定大会講師に聞く⑧

収量維持する樹体の構成 品質を高める枝作り

今回で最後となる新春剪定大会講師の紹介は、丸葉樹の講師を務めている大鰐町元長峰支会の山田敏彦氏である。同氏に自園地での剪定の考え方と大会剪定樹のポイントを伺ったので紹介する。



大鰐町元長峰支会 山田 敏彦氏

▼垂主枝を置かない

短幹仕立て 山田氏は、宅配を主とした経営にしていることから、消費者に求められる品質として特に食味を重視している。同氏の園地は、60年生以上の老木が多く、山

手のため積雪も多い。そのため、枝質を見極めながらの成り枝への結果母枝の更新を意識した剪定を行っている。

基本の骨格は、3〜4本の主枝で開心形にしている。積雪は1.5m以上に達することから雪害に遭いやすく、地方も弱いため主枝を低い位置から発出させた短幹仕立てとしている。主枝が多いため、垂主枝を置かず結果母枝で構成するようにしているという(写



写真1 結果母枝を立体的に配置



写真2 常に先頭に変わる枝を準備



写真3 細かい成り枝を多く付ける

真1)。垂主枝を置いた場合、大きくなる主枝同士の間隔が埋まり易く、基部の枝も飛び易くなるため、永く使えないとした。良品生産のため、作業時に人や梯子が入り易いように、必要最低限の作業性を確保しながらの樹形づくりに努めている。

結果母枝は、立体的な配置とすることで収量と品質を維持している。主枝の間隔に先端側と基部側へ伸ばすように方向づけを行

い、横の空間を有効活用する。また、樹が大きくなると、先端に結果部位が集まると雪害や腐らん病などで欠損した際に戻る部分がなく、収量を落とす事になるため、基部側に更新枝となる枝を常に確保しておくことも大事だと話した(写真2)。

花芽を充実させるため、採光性も意識して枝を配置している。永く使い過ぎて垂主枝化しないように結果

▼品質を意識した 樹勢の調整

普通系の「ふじ」の場合、樹勢が強すぎる日陰を作ったりやすくなることから着色が悪くなりやすい。そこで食味が良く、肥大と着色を両立しながら樹を永く使っていくためにも樹勢調整は重要であると話す。

樹勢判断は、新梢長30cmを適正として見るが、短い花芽の充実した枝が多い場合は適正な樹勢として判断する。また、収穫期の落葉の様子でも見極めできるとし、樹勢が落ち着いて2次伸長している枝が少ない樹ほど、落葉が進むという。

結果母枝や成り枝は、年数をかけて作ることで花芽が付き易くなり、樹勢も強くなりやすいとした(写真3)。果台枝あがりて芽が

今旬の作業

(4月5〜14日)

▼概況

①今年も昨年と同じく発芽が早まりました。りんご研究所では生育の早い「ジョンナゴールド」が3月28日に発芽したのを皮切りに、「つがる」と「王林」が29日、「ふじ」が30日となりました。五戸の県南果樹部では「ふじ」以外の品種は黒石と同じでしたが、「ふじ」は29日でした。

②剪定はほぼ終盤で、枝片付けやチェーンソーでの作業が行われています。

③腐らん病の胴腐らんや枝腐らんが共に見られます。また、昨年リンゴゴダニが多発した園地では、越冬卵も多く確認されています。

▼展葉1週間後に備えよ!

①薬剤防除をはじめ作業計画を立てる上で生育ステージは目安となりますが、平年値が今年からいずれの品種においても昨年より1〜2日早まって

います。発芽日までは、記録的に生育が早かった昨年並みに進んでいます。

②昨年は1回目の薬剤防除である「ふじ」の展葉1週間後頃(4月18〜20日頃)に散布されました。本年も生育の早まりがみられていることから、4月の第4半旬頃には薬剤散布が始まると想定されます。各自園地の展葉に合わせて散布することが大切です。

③今後の天気次第で生育が進む可能性も見込んで、SSの整備や走行路に危険箇所がないか早目に確認しましょう。

▼病害虫は早期確認・早期対処

①昨年多発した腐らん病ですが、今年も十分な警戒が必要です。枝腐らんや胴腐らん、見つけ次第速やかに切り落とすか治療するなど対処してください。

②太めの枝や幹などに発病し、病斑が太さの半分以下まで拡大している場合は思い切って切り落とす決断も大事です。

③リンゴゴダニの越冬卵が非常に多い園地もありま

す。昨年発生が多かった園地では注意して下さい。越冬卵を確認した場合は薬剤がしっかりとかかるように風がない時を選んで丁寧な散布に努めて下さい。

④ナンマルカイガラムシの被害も増えているようです。併せて被害状況を確認し、徹底防除に努めましょう。

▼凍霜被害に注意!

①生育の早い年は凍霜被害を受けやすいため、注意が必要です。昨年4月中下旬の凍霜害の影響で花器障害もみられました。

乾燥している春のりんご園 枝片付け時の野火に注意して下さい!

乾燥している春のりんご園 枝片付け時の野火に注意して下さい!



写真4 新春剪定大会剪定樹(3年目、剪定前)



写真5 新春剪定大会剪定樹(3年目、剪定後)

▼新春剪定大会での考え方

今回剪定している樹は、骨格がある程度できているものの、成らね過ぎで花芽が少ない状況であった。そこで1年目は収量を確保するため花芽が着いた中・長果枝を中心に残し、新たな結果母枝群を作っていくようにした。2年目は花芽ができてきたが、北側で弱芽が多く、樹勢の偏りも

令和3年春苗木幹旋始まる 予約苗木の受取も続々



暖かい日も続き春作業が進められる中、本会の令和3年春の苗木幹旋も今月1日から始まりました。初日から多くの生産者が優良苗木を求め来会している。本年は「特選三鳥ふじ」や「協会選抜ふじ」を始め、黄色品種の「シナゴールド」「トキ」の外引取りも対応するたい。昨春秋や今春に予約されている方は早めの引取りをお願いする。りんご苗木の他サクランボやモモ、洋ナシなど一般果樹も取り扱っている。併せての購入も検討して頂きたい。

Advertisement for agricultural products including Mikiwa 20, Topjin M, Befuran, Romdan, Labisan Plus, Mospiran, and Topjin M Paste, with contact information for Nippon Saito Co., Ltd.